

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	廃棄物・ごみ処理設備環境評価小委員会	主 査 名：関 五郎 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (水環境運営委員会)	委員長名：加藤信介 主 査 名：関 五郎
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2007 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2005 年度に収集した実データおよび 2006 年度実施の主要自治体アンケートをベースに、データ解析・評価を実施し、建築用途別における廃棄物・ごみ処理設備の環境要求性能を検討。 ・ 建築計画での運用面からみた必要な設備やスペース、動線、室内環境条件などを検討対象とし、設計段階での廃棄物・ごみ処理設備の環境要求項目の整理。 ・ アカデミックスタンダード(指針)の作成。 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有	
	関五郎(日建設計)井田光俊(office I・D・A)大塚雅之(関東学院大) 大橋一正(工学院大学)井澤勇八(住商ビルマネージメント)田村誠一(都市環境エンジニアリング)磯部絵美(都市環境エンジニアリング)輿水知(加倉工業) 間宮 尚(鹿島建設)新村浩一(三機工業)豊貞佳奈子(東陶機器)青山元(富士重工)杉村総一郎(アートファクトリー玄)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2006 年度予算	68,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	10 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. これまでの委員会活動にて得られたデータをもとに、建築計画におけるのごみ処理施設計画のためのアカデミックスタンダード(指針)の作成を実施する。
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 実際の廃棄物処理施設等の視察を実施。 2. 主要自治体からの廃棄物におけるアンケート調査を実施し、高い回収率にてデータを得られた。
委員会活動の問題点・課題	1. アカデミックスタンダード(指針)作成に向けてのプロセスごとの内容検討。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。

* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2006 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>A</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>本年度は、主要自治体約100都市に対し、廃棄物基準におけるアンケート調査を実施し、ほとんどの自治体から回答を得ることができた。 これまでの調査データ及び本年度実施した自治体からのアンケート回答結果等をもとに、アカデミックスタンダード(指針)作成における基礎づくりが可能になった。 来年度より、本格的にアカデミックスタンダード(指針)作成に向けた継続活動を実施していく予定である。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。